

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490900018		
法人名	社会福祉法人 積善会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	豊後高田市呉崎775-10		
自己評価作成日	平成25年2月17日	評価結果市町村受理日	平成25年8月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年3月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の食事作り、外出行事、趣味、特技を活かし、入居者の方の要望に沿った支援が出来る体制にある。自分らしさを出して頂き、心豊かな生活が送れるように個人を大切に支援に努めております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・食事を楽しむ支援として、毎食、事業所内で利用者と職員と一緒に食事作りをしている。朝食はバイキングであり、週1回レストラン風の選択メニューの食事や喫茶店を開いている。  
 ・地域の小学校の入学式に、手作りのお守りやクッキーをプレゼントしている。また、地域住民や5～6年の小学生を対象に認知症の勉強会を開いている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、廊下に掲示し職員の名札に記載している。毎月の会議で具体的に話し合い共有している。	理念は、「家庭的な雰囲気の中で自分らしく、心豊かな暮らしができるように支援する」と明文化し、玄関や廊下、名札の裏に掲示している。理念の実践は、会議の中で振り返っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	学校の入学式、運動会、地域の行事に参加して交流を深めている。	地元小学校の入学式に、手作りのお守りやクッキーをプレゼントしている。また、地域住民や家族会及び小学生(5～6年生を対象)に認知症の勉強会を開いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会を小学校、又家族会で行い、認知症の理解、助言に努めている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、質疑応答を行い提案された意見を実践に繋げている。入居の方に参加して頂いている。	家族の意見として、グループホームでのリハビリや、防災(津波)の質問を受けている。また、利用者は、輪番制で会議に参加してもらっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	住民検診を受けて健康管理に努めている。運営推進会議に市役所介護保険課の担当者の方に参加して頂き意見を頂いている。	毎年、市の住民検診に公民館へ出掛けている。介護保険課より、ショートステイの相談を受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が共有認識を図り、安全に配慮して拘束のないケアを実践している。	「身体拘束をしないケア」の文書を貼り、日々のケアに活かすようにしている。また、転倒の危険性のある方は、家族に了承を得て、センサーマットを使用している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の行動言動に対してお互いに意見出し合い、自己を振り返りながら日々のケアに努めている。	/	/

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深める様にしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアの考えと取り組みを丁寧に説明し、入院時居室使用同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し要望や苦情を伺っている。また年2回の家族会を開催し意見や要望を運営の反映に繋げている。	日々のケアを通して、利用者の意見や要望を聞いている。また、家族の意見は、年に2回、家族会を開催し聞いている。また、電話や面会時に聞くことが多く、運営に反映をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、毎月の会議で職員の気づきや意見を自由に言える機会を作り聞き出せるように努めている。	日々のケアで困っていることや、研修報告、居室担当など議題を決めて毎月会議を開いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の抱えている問題等聴いてくんだり向上を持って働けるよう環境に配慮がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加させて頂き質の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分老施協所属のGH研修に参加させて頂き意見や経験をケアに活かしてしる。		

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族が入居に対して不安を感じている時は、要望を十分にお聞きし不安の軽減を図り信頼関係を築いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがサービス導入までの経過についてゆっくりお聞きしている。ご家族様が不安に思っている事を把握し、要望に応えられるように信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に思い、状況等を十分に確認しながら関係機関担当者等とも協議しあい、改善に向けた支援の提案や必要なサービスに繋がられるように対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々は人生の大先輩であり生活歴等を把握したうえで職員が情報を共有し利用者の「想い」に添って信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時利用者様の暮らしの出来事や気づきを報告し施設での活動の写真と園だよりを送り情報の共有に努めている。ご家族様に対応方針を報告しながら納得して頂ける支援を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の友人や知人、親戚等定期的に面会に来られる。	一人ひとりの希望に添って、飛行場やパチンコ屋、喫茶店、ファミリーレストランなどに出掛けている。また、小学校や神社など思い出の場所に出掛けている。男性は、年の暮れに門松づくりをしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共有場所で出来るレクや掃除、洗濯、食事の準備等と一緒にできる様、雰囲気作りに努めている。		

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院された方がいても関係機関との情報交換等行い定期的にお見舞いに行き、様子を伺った。お亡くなりになった方もおられお通夜、葬式にも参列させて頂いた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛けご本人の意向の聞き取りを行い、把握に努めている。介護計画書の立案時に再度ご本人・ご家族の要望、意向を確認している。	利用者の意向は、日々の関わりの中で聞いている。また、介護計画書の立案時に家族の要望を聞いているが、今後、状況の変化や介護度の変動に伴ったアセスメント表の記入が必要である。	アセスメント情報は、在宅版を使用しているが、できるだけ認知症のケアに必要なアセスメント様式の検討を期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にできる限りこれまでの生活歴・個性や価値観等の情報を伝えてもらい職員全員が共有できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護計画書を各勤務者がチェックを行い現状把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の職歴やこれまでの経験、得意な事を活かし入居者の方やご家族の方の思いが反映できるように心掛けている。会議にて職員全員で意見交換を行い共有を図っている。	状態悪化時や介護度の変化に応じて、見直しを行い、現状に適した介護計画書が大切である。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に介護計画の評価や見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を踏まえ通院など必要な支援を行っている。又、一人一人のニーズに応えられるようにスタッフが外出支援の付添い等を行っている。		

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ各関係者から地域資源を聞き把握を行っている。又、地域の方にはグループホーム知って頂き協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・ご家族の希望に応じ必要な医療機関に受診を行っている。ご家族の付添が出来ない場合は職員が付添いを行い、受診後は家族・職員間で情報の共有を行っている。	利用者や家族の意向を聞き、医療機関を選んでいる。受診後は、家族や職員間で情報を共有しており、適切な医療が受けられる仕組みである。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり急変時等支援受け入れられるように体制をとっている。又、日頃より連携を図り入居者の健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院中職員はGHにて生活が継続できるように定期的に面会を行い入院中の生活状況が把握できるように対応している。又、早期の退院が出来るようにご家族の意向を含め入院先医療機関との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の希望の確認をし記録として残している。又、退院後等定期的に意向の把握を行っている。	利用開始時に、重要事項説明書を用いて、重度化や終末期について説明している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥の吸引、タッピング方法、外傷等の応急処置は対応できるように研修を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導で非常防衛災害訓練を行っている。又月1回グループホーム独自で避難訓練の実施を行っている。運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼している。災害時の飲料水食糧の備蓄を行っている。	年に2回、防災訓練を行っており、1回は夜間想定で火災訓練を行っている。運営推進会議を通じて地域の協力体制はできている。また、備蓄もある。	

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報の漏洩防止のため、個々の情報は外部者の目に触れないように管理している。また、排泄の声掛けは耳元で小声で行い、排泄・入浴・更衣の際は人目に触れないよう、戸を閉めて行っている。	一人ひとりの誇りを大切にし、プライドを傷つけないように声掛けをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご本人の行きたい所やしたい事などを聞き取り、希望に沿った外出行事やレクを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のその日の体調や気持ちを尊重し、その方らしい生活が送れるように個別に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する衣類はご自分で選んで頂いている。レクの一環としてエステを取り入れ、ご本人の希望を取り入れメイクも実施している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と一緒に作っている。一人一人に、食べたい物の聞き取りを行い、週に一回ずつ、レストランや喫茶店を開いている。	朝食はバイキングである。食の楽しみを大切にするために、食事や喫茶は週1回、レストラン風に選択メニューを設けている。テーブルクロスの工夫や紅茶、コーヒー、ココアのメニュー表もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分摂取量、食事量を把握し、全職員で共有し、少ない方には個別に提供しバランスを保っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の能力に応じ、声掛け、見守り、介助を行っている。		

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導をしている。又、その方々に応じてた排泄物品を使用している。	一人ひとりの排泄時のサインを察知し、トイレ誘導をしている。介護度5度の利用者も布パンツを使い、できるだけおむつを使用しないケアに取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳・食物繊維の多い食材の提供・腹部マッサージ・散歩等促し運動を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き状態体調に合わせて対応し、季節に合わせて更衣所・廊下・ホールの温度等に気を配り利用者が快適に入浴できるよう配慮している。体調不良により入浴できない方には、清拭・足浴を行っている。	入浴は、利用者の好みを聞き、夜間入浴を楽しむ利用者もいる。平均して週2～3回である。また、体調不良の利用者は清拭や足浴で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中レクリエーションや行事に参加していただき、夜間安眠できるように繋げている。又夜間寝付かれない場合等は温かい飲み物を提供したり温度調節をしたり利用者の訴えに傾聴するように心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態変化がある場合は、詳細な記録と報告を徹底している。職員が薬の把握ができるようにファイルに保管している。薬の準備・服薬前は、二人以上の職員で確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の体調等考慮しながら、大工・絵画・料理等、ご本人様の興味がある事に参加して楽しんで頂き、他利用者と作業されたり会話を楽しまれたりし気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各自お誕生日には事前にご本人様・ご家族様の要望をお聞きし、お墓参りや空港見学等出掛けられる。又、季節を感じて頂けるよう定期的に外出を行っている。	中庭で散歩が楽しめるように花木を植え、いつでも外気に触れられるような庭造りである。外出支援として、意向を聞き、入学式の参加、空港見学、神社のお参り、花見、温泉入浴などがある。	

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、ご本人様の安心・満足を感じて頂くために、ご家族様の協力を得て少額のお金を持参されている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方に本人様が書かれた暑中見舞いや年賀状を送付している。ご希望があった時には、電話をされている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる飾りや写真を掲示し、家庭的な雰囲気作りに努め、利用者、職員が会話を楽しみながら居心地良く過ごせるような環境づくりをしている。	季節感のある飾り物やお花、新聞、テレビなどが置かれ、利用者と職員がいつでも会話ができるような対面式の台所である。女性の利用者は、野菜の皮むきや米とぎなどをして	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読まれている方やテレビをゆっくり見られるようにソファを置いている。台所にて料理が好きな方に皮剥きや米研ぎをされている。台所での調理が難しい場合はテーブルで作業が行えるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具や寝具を使用し、また写真や飾り付けをし安心して暮らしてもらえるように配慮している。換気や加湿に気をつけ環境を整えている。	利用者一人ひとりの趣味の作品や家族との思い出の写真などが置かれている。また、使い慣れた家具や寝具を持参している。とくに室温の調節や加湿器などの配慮がある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」と張り紙を使用し見てわかるよう配慮している。身体状態に応じて物の配置に気をつけ、危険防止の為環境整備をしている。		